みやがわ
宮川

みず　みずべ　い　もの
水と水辺の生き物

せきついどうぶつへん
- 脊椎動物編 -

出会いのチェック表 ～出会った動物をチェック ☑ してね～

□アオサギ
□アカミミガメ
□アジメドジョウ
□アマガエル
□アマゴ
□アユ
□アユカケ
□イシガメ
□ウキゴリ
□ウグイ
□ウナギ
□オイカワ
□オオクチバス
□ｵｵﾀﾞｲｶﾞﾊﾗｻﾝｼｮｳｳｵ
□カジカ
□カジカガエル
□カマツカ
□カワウ
□カワガラス
□カワセミ
□カワネズミ
□カワバタモロコ
□カワムツ
□カワヨシノボリ
□ギギ
□キクガシラコウモリ
□キセキレイ
□ギンブナ
□シマドジョウ
□シマヘビ
□シマヨシノボリ
□シュレーゲルアオガエル
□スッポン
□スナヤツメ
□タイリクバラタナゴ
□タカハヤ
□タゴガエル
□チュウサギ
□ツチガエル
□トノサマガエル
□トビ
□ナガレヒキガエル
□ニゴイ
□ニホンイモリ
□ヌマガエル
□ヌマチチブ
□ネコギギ
□ハコネサンショウウオ
□ハス
□ブチサンショウウオ
□ブルーギル
□マムシ
□ミサゴ
□メダカ
□モツゴ
□モリアオガエル
□ヤマアカガエル
□ヤマカガシ

その他の生き物〔　　〕

なんでもメモ帳 ～気がついたことをなんでも書き込もう～

目次

下～中流の魚類　１～７
ネコギギ、ナマズ、アユなど

上流の魚類　８～９
アマゴ、カジカ、タカハヤ

池・沼の魚類　１０～１１
メダカ、モツゴ、オオクチバスなど

両生類　１２～１９
ナガレヒキガエル、モリアオガエル、カジカガエルなど

爬虫類　２０～２１
イシガメ、マムシ、シマヘビなど

鳥類・哺乳類　２２～２３
カワガラス、カワセミ、カワネズミなど

池ノ谷モリアオガエル繁殖池（県指定天然記念物）

ネコギギ（国の天然記念物）

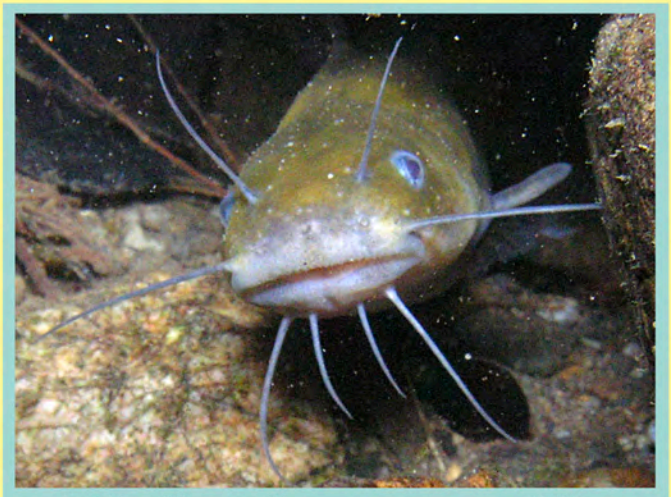
↑ 川底を縫うように泳ぐ体長 6 cm ほどのネコギギ（夜行性）。ネコギギは清流「宮川」を象徴する貴重な淡水魚で、国の天然記念物に指定されています。伊勢湾と三河湾に流入する一部の河川にしか分布しておらず、各生息地では河川環境の変化により数が減ったり絶滅したりしています。宮川でも2004年の台風災害により生息地が荒れ、数が減ってしまいました。

はてな？ボックス

Q「背椎動物」ってなに？

A「背椎動物」とは、「骨」を持つ生き物のことです。たとえば魚の仲間や私たち「ヒト」がそうですね。一方、「タコ」や「カブトムシ」は骨を持っていませんので、まとめて「無背椎動物」と呼ばれます。背椎動物はさらに、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類の５つに分類されます。私たちは哺乳類です。

表紙：モリアオガエル



↑ 正面の顔。８本の「ヒゲ」は、暗闇でもエサを探せるよう、「レーダー」のような機能を持っています。

↑ 卵から孵化して数ヶ月のまだ幼いネコギギ。体長２cmほどにまで成長しました。顔つきにあどけなさが残ります。

ギギ

↑川底でじっとしているギギ。ギギは日本の魚ですがもともとは宮川にはいない魚で、人間の手によって運ばれて宮川に棲むようになりました。このような生き物を「国内移入種」と言います。小さいギギ(右下)はネコギギと似ていますが、尾びれに鋭く切れ込みが入ること(黄色い丸)でネコギギ(赤い丸)と区別できます。ギギは名前のとおり「ギー、ギー」と鳴きます。

アカザ

↑赤褐色の小さな体が特徴的なアカザ。素手でさわると刺されることがあるので注意しましょう。

↓ナマズは川の深い淀みやダムにいます。その大きな口でエサを丸呑みにします。

ナマズ

↑ オイカワはキラキラ輝く鱗が特徴です。速い流れの中でも素早く泳ぐことができます。

↑ カワムツはオイカワによく似ていますが、オイカワほど鱗は輝かず、泳ぎは緩慢です。

↑ 石の陰に潜むハス。への字に曲った口で獲物を丸呑みします。国内移入種です。

↑ 夏場は赤くきれいな「婚姻色」が出ます。数百匹の群れが川を遡ることもあります。

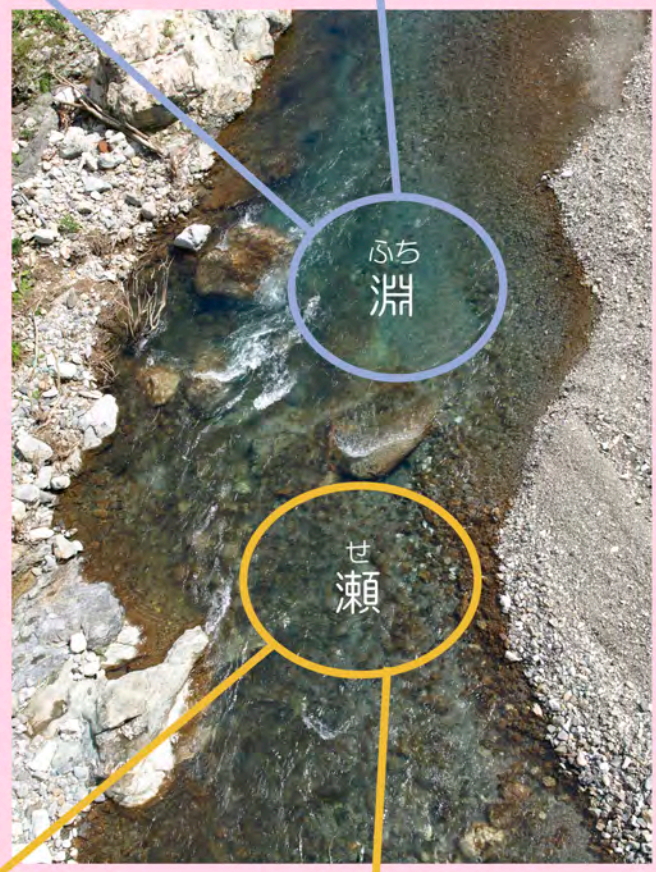
↑ コイ（鯉）に似ているのでニゴイと呼びます。口が突き出ているのが特徴です。

↑ ギンブナはちょっと不思議な魚で、ふつうはメスしかいません。理由は謎です。

はてな？ボックス

Q 魚によって棲む場所は違うの？

A はい、違います。たとえば、川の流れにはおもに、遅くて深い「淵」と、早くて浅い「瀬」があります。宮川の場合、「淵」にはカマツカ・シマドジョウ・ニゴイ・カワムツなどが棲み、「瀬」にはカワヨシノボリ・アジメドジョウ・カジカなどが棲みます。また、同じ魚でも、体の大きさ、年齢、時間（昼と夜）によって棲む場所を変えたりします。このように、自然の川には多様な棲み場所があることで、多様な魚が生きることができます。



↑ アユは一年で大きく成長し、秋に繁殖して死んでしまいます。このような魚を年魚と言います。

↓ アユの「食み跡」。アユは岩に張り付いた「藻」を口でこするようにして食べます。するとこのように食み跡が残ります。

← ヌマチチブはたいへん臆病な魚で、近づくとすぐに岩陰に隠れます。

↓ ほおに縞模様があります。オスは「なわばり」を持ち、石の下の隙間に巣を作ります。「なわばり」に近づくオスには口を大きく開けて威嚇し、追い払います。

← ウキゴリの他に「シマウキゴリ」や「スミウキゴリ」というよく似た魚がいます。

→「石化け」するアユカケ。アユカケはあまり動かずにじっとしています。色や模様が川底の小石に似ているため、あまり目立ちません。何も知らない獲物が目の前にやってくると、とたんに俊敏に動いて食らい付きます。アユカケは海に降って産卵します。別名「カマキリ」ですが昆虫のカマキリとは関係ありません。

↑ 石の隙間から顔を出すウナギ。ウナギは海に降って、深い海の底で産卵します。

→ スナヤツメは砂や泥の中に潜っていることが多く、なかなか見ることはできません。正式には魚類ではなく「無顎類」です。

はてな？ボックス

Q 別の生き物に同じ名前がついていることはけっこうあるの？

A はい、あります。たとえばハスという淡水魚（4ページ）がいますが、ハス（蓮、レンコン）という植物もあります。その他にも、カマツカ（淡水魚と植物）、シマアジ（海水魚と鳥）、ミヤマクワガタ（昆虫と植物）、ホトトギス（鳥と植物）などがあります。

カジカ（大卵型）

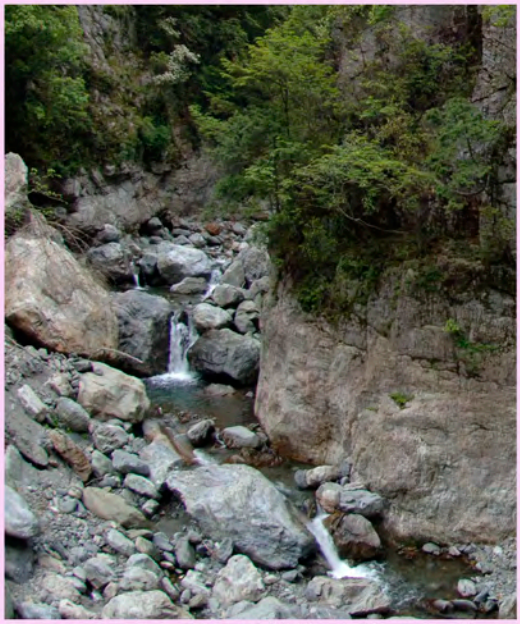
↑ カジカはどこにいるでしょう？ 探してみてください。カジカの体色は小石にそっくりで、風景にまぎれてあまり目立ちません。

← 川底でじっとしてエサがやってくるのを待ちます。アユカケ（7ページ）によく似た魚です。海に降る「小卵型」や「中卵型」もいます。

→ タカハヤの群れ。タカハヤは、いつも群れでいます。近づいてもあまり逃げません。貪欲で簡単に釣ることができます。アブラハヤというよく似た別の魚がいます。

アマゴ

↑ 清流を悠々と泳ぐアマゴ。海に降るものは「サツキマス」と呼ばれます。



↑ アマゴの棲む渓谷。冷たく澄んだ流れにアマゴは生きています。

← アマゴは昆虫に似せた「毛ばり」で釣ることができます。

↓ 最大で 40 cm ほどにまで成長します。

メダカ

↑ メダカの群れ。最近は数が減ってしまい、目にすることも少なくなりました。

↓ カワバタモロコのオスは初夏になると金色に輝きます。数の少ない希少な魚です。

↓ タイリクバラタナゴのオスは大変美しい色あいをしています。中国大陸からやってきた外来魚です。タイリクバラタナゴを含め、タナゴの仲間はドブガイなど淡水二枚貝の中に卵を産むという変わった生態を持っています。

ドブガイ

タイリクバラタナゴ

← 上に向いたおちょぼ口が特徴です。

←「ブラックバス」とも呼ばれます。北アメリカからやってきた外来種です。全長60cmほどにまで大きく成長し、動いているものに激しく喰らいつく習性があるため、ルアー釣りの対象として人気があります。ただし、他の魚種を食べ尽くしてしまい、大きく生態系を破壊するため、各地で問題になっています。おもに池や沼、ダムなどの止水に生息しますが、写真のように流れの緩やかな河川にいることもあります。最近はコクチバスと呼ばれる、ブラックバスによく似た外来魚も各地で増え始め、問題を引き起こしています。いずれも、環境省の「特定外来生物」に指定されています。

→オオクチバスと同様、北アメリカからやってきた外来の魚です。何でも食べるたいへん貪欲な魚で、繁殖力も強く、生態系に与える影響はオオクチバスより大きいとさえ言われます。もともとは食用として持ち込まれた魚なので、フライなどでおいしく食すことができます。「特定外来生物」に指定されています。

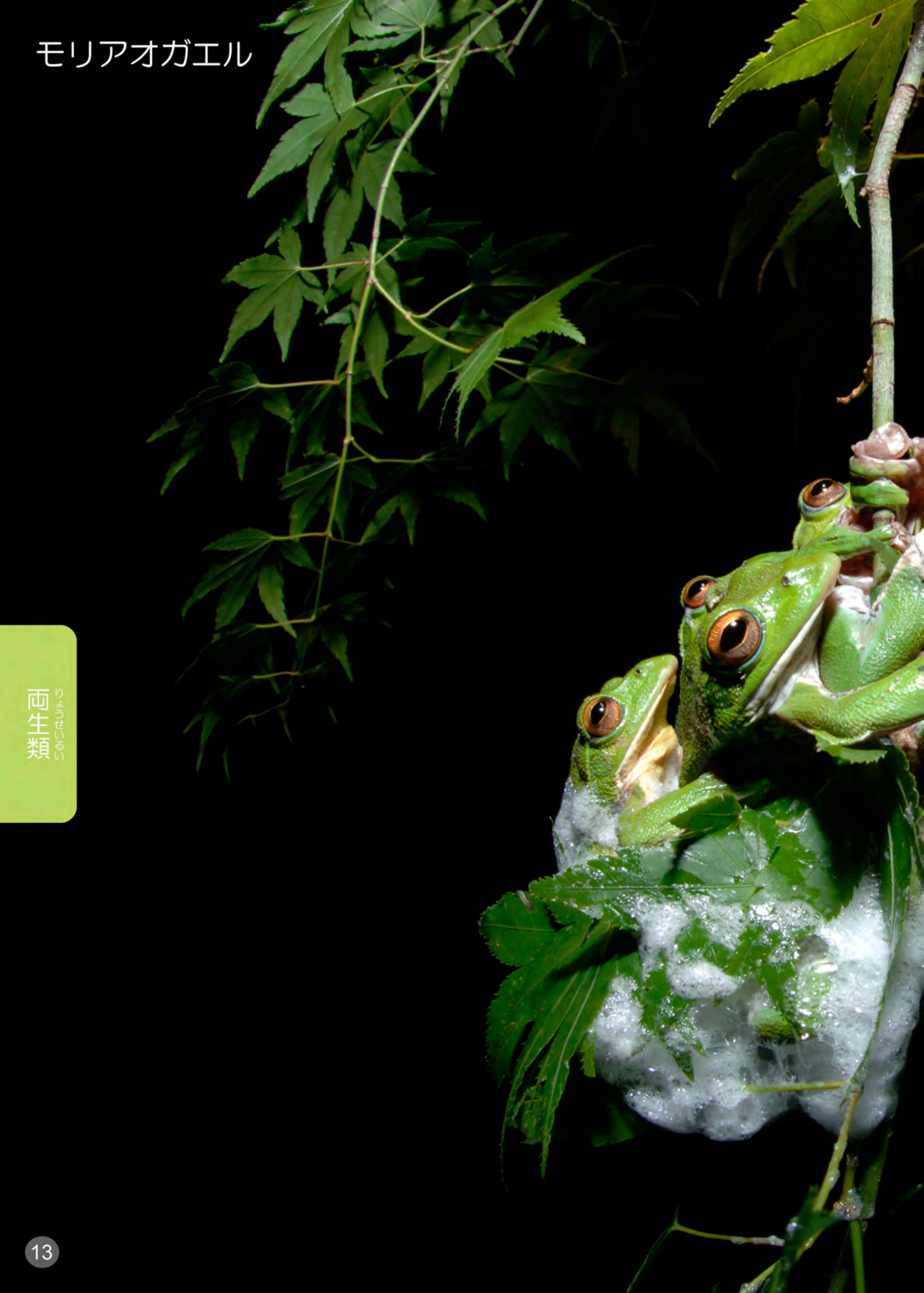
はてな？ボックス

Q「特定外来生物」ってなに？

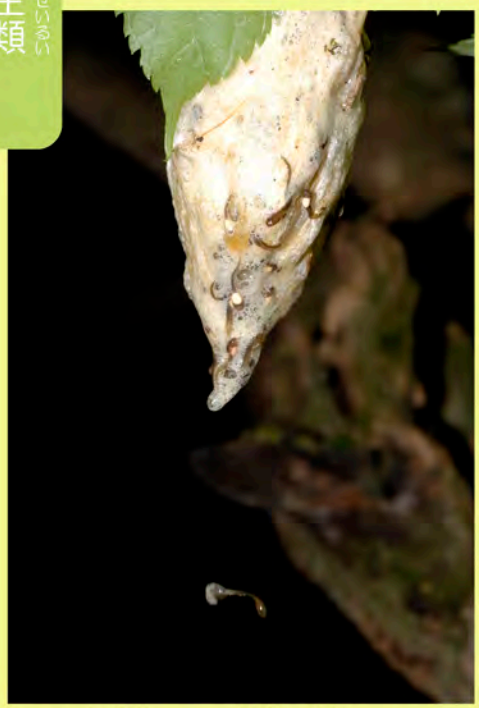
A「特定外来生物」とは、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」という法律によって定められる生物種です。外来生物法では、生態系に影響を与えると思われる外来生物の飼育や放流を禁止することで、日本の健全な生態系が損なわれてしまうのを予防・防止しています。この法律により、オオクチバスやブルーギルを家庭の水槽などで飼育することは残念ながらできません。

↑ 10月、林を徘徊するナガレヒキガエル。冬眠に向けてエサを探し歩きます。昆虫やクモ、ミミズなど、動いているものなら何でも食べます。5～6月の産卵期には川のほとりに姿をあらわし、深い川底でじっとしていることもあります。

モリアオガエル



↑６月の深夜、モリアオガエルのオスは池の上に張り出た木の枝に登り、「グッグッグ、、、、」と低い声で鳴き、メスを呼びます。やがてメスがやってきて産卵が始まります。



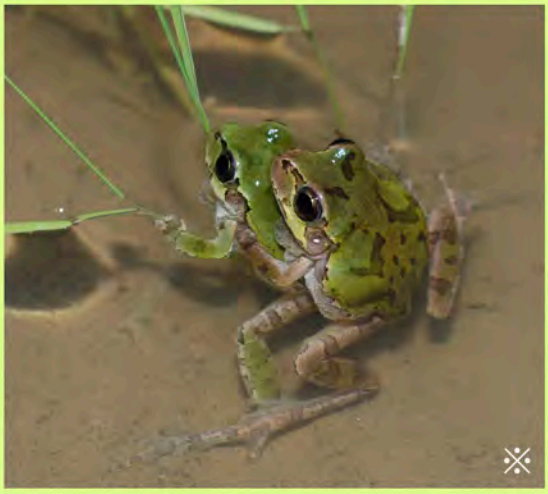
↑２週間ほどで卵が孵り「おたまじゃくし」が池へと落ちます。

↓モリアオガエルの産卵。１匹のメスに、たくさんのオスが集まり産卵します。メスは卵と同時に白い泡を出し、後ろ脚を器用に動かしてその形を整えます。卵は白い泡に包まれて、全体はリンゴほどの大きさになります。白い泡は、木の枝に果実のようにぶら下がります。

↑ 5 月の夜、水田の畦で鳴くオス。茶色く変色しています。「キリリリ・・・」と高い声で鳴きます。土を掘って空間を作り、その中で産卵します。

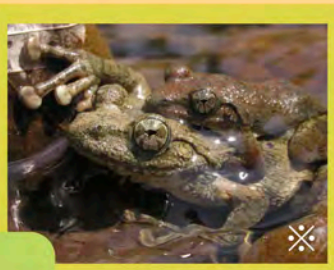
↓ シュレーゲルとモリアオはとてもよく似ており、区別のつかない個体もいます。一般にシュレーゲルはモリアオに比べて体が小さく、黒目の周りが黄色くなります。

→ アマガエルはシュレーゲルによく似ていますが、鼻から前脚の付け根にかけて黒く太い線が入るのが特徴です。「グェッ、グェッ」と鳴きます。皮膚に弱い毒があるので触ったら手を洗いましょう。



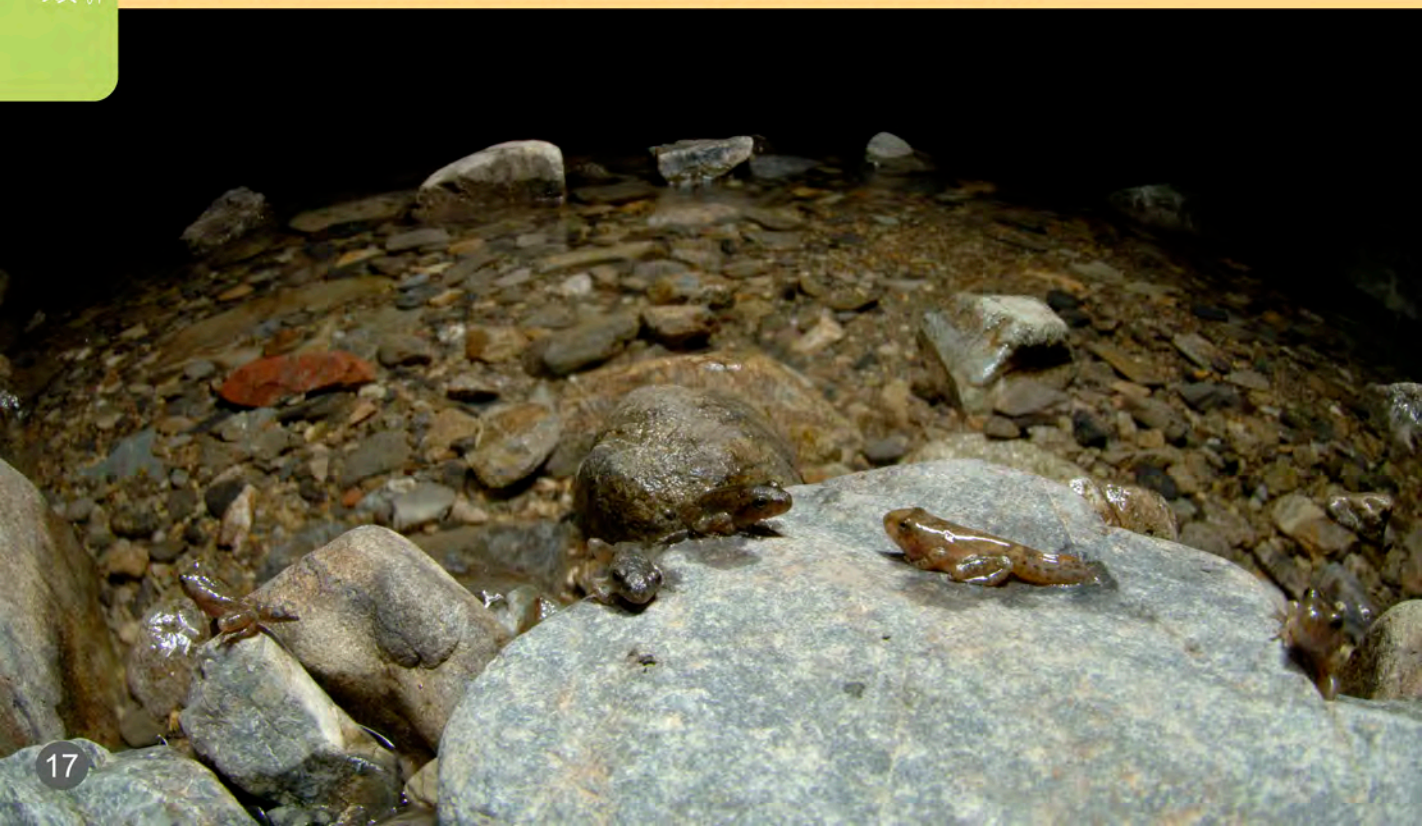
← 水田でつがうアマガエルのペア（左がメスで右がオス）。初夏になるとどこからともなく水田に数多く集まり、大合唱を始めます。背中のまだら模様は消えたり現れたりします。体全体が灰色になることもあります。

←↓ 6月の梅雨時、オスは石の上に乗って「フィフィフィ・・・」と高く透き通った声で鳴きます。体は様々な色に変えることができます。体は平たく、水の中を器用に泳ぐことができます。



←大きなメスの背中に、小さなオスがしがみつきます。

↓ 真夏の深夜、次々と上陸するカジカガエルの子どもたち。まだ尻尾が残っていますが、手脚が生え、いよいよ陸上で生活する準備ができました。



↑ ツチガエルは体中に「いぼいぼ」があるのが特徴です。たいへんおとなしい蛙です。

↓ 背中に白い縦の線（正中線）が入る個体もいます。

←「ニャッニャニャニャ・・・」とやや低い声で鳴きます。ニホンアカガエルというよく似た蛙もいます。

→ 小さくてずんぐりむっくりの、かわいらしい蛙です。「キュウキュウ・・・」と鳴きます。

← ヤマアカガエルによく似ていますが、指の先が丸くコブ状になります。

↑水田や湿地で見られます。

ブチサンショウウオ

↑ ふだんは倒木や石の下などでひっそりと生活しているため、人の目に触れることはなかなかありません。たいへん美しいサンショウウオです。

両生類

オオダイガハラサンショウウオ

↑ 三重県の天然記念物です。

↓ ふだんは水の中にいますが、夜はエサを求めて陸上を徘徊することもあります。アカハライモリとも呼ばれます。

ニホンイモリ

ハコネサンショウウオ

イシガメ

↑ 川底を歩くイシガメ。亀は動きの鈍い生き物と思われがちですが、水の中では予想以上にすばやく動き回ります。

← 亀の甲羅には「年輪」が刻まれます。成長の滞る冬に溝ができるためです。これは６～７歳と思われます。さらに、最初の冬から次の冬にかけて大きく成長したこともわかります（黄色い矢印）。

スッポン（危険）

↑ スッポンはとても柔らかい甲羅を持つ亀です。ただし性格は攻撃的で動きはすばやく、鋭い歯で噛み付かれると大ケガをします。

↓ 小さいころは体全体が緑色をしており「ミドリガメ」とも呼ばれます。もともと日本にはいない生き物です。

爬虫類

アカミミガメ

↑ 河原で「とぐろ」を巻くマムシ。マムシは石の多い河原によく出没します。咬まれると猛毒が体中に回り、大変危険です。発見したら近づかずに、そっとしておきましょう。

← 蛇の「抜け殻」。蛇は「脱皮」を繰り返して成長します。

→ ヤマカガシは河原の大きな石の下などに潜んでいることがあります。咬まれると危険です。石の隙間などに、不用意に手を突っ込んだりしないようにしましょう。

→ 川を泳いで横断するシマヘビ。体の縦縞模様が特徴です。シマヘビに毒はありません。シマヘビを含め多くの蛇は、体をくねらせて上手に水面を泳ぐことができます。

← カワガラスは川筋を飛び回ってエサを探します。川沿いを歩いていて、「ピッピッ・・・」と鳴きながら低空飛行する褐色の鳥を見かけたら、たいていそれはこのカワガラスです。

→ キセキレイは河原によく現れます。長い尾を上下に振るしぐさを頻繁に行います。あまり人を恐れず、ゆっくりと近づけば間近で観察できます。

↑ 白く大きな鳥です。水田などでよく見かけます。ダイサギやコサギなど、よく似た鳥がいます。

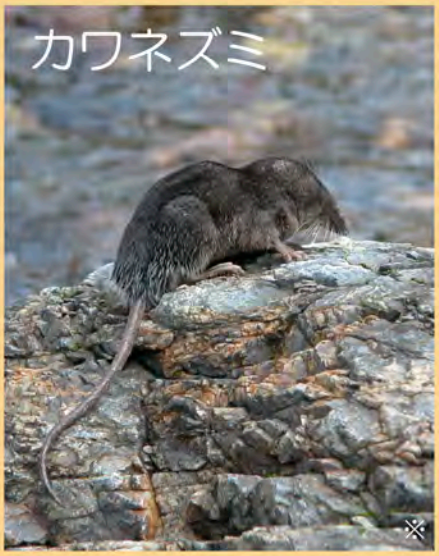
↑ 美しく色鮮やかな水辺の小鳥です。

→ アオサギは体全体が青灰色です。

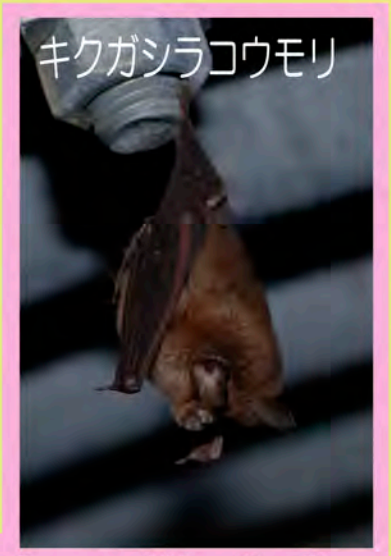
↑黒く大きな鳥です。川魚を貪欲に食べます。海岸や磯にいることもあります。

↓ もっともよく目にする猛禽類（ワシやタカの仲間）です。川沿いにもよく姿をあらわします。

↑ ミサゴは水辺で魚を狩ります。トビに似てますが、全体が白いのが特徴です。川沿い、湖沼、海岸、漁港などで見られます。



← 水の中をすばやく動く銀色の物体を見たら、おそらくこのカワネズミがその正体です。泳ぎが大変上手で、川沿いの石の隙間をねぐらとして生活しています。名前はネズミですが、正式にはモグラの仲間です。



→ 夜になると棲みかとしている洞窟やトンネルなどから抜け出ます。川面の上を音もなく飛び回り、飛んでいる虫などを捕食します。

はてな？ボックス

Q 宮川にはここに紹介されている動物しかいないの？

A いいえ、他にもたくさんの動物がいます。「川」は生物にとってなくてはならない「水」を与えてくれる大切な場所で、あらゆる動物が集まります。ぜひ図鑑を片手に宮川沿いを歩いてみてください。きっといろいろな動物に出会えることでしょう。もちろん背椎動物だけでなく、無背椎動物（昆虫やクモなど）や植物も多くの種類が見られます。機会があればそれらについても紹介しましょう。

「宮川の光と影」

宮川とその周辺は、大自然に囲まれた風光明媚な地域ですが、一方で過疎化・自然破壊・希少生物の乱獲・山林の荒廃など様々な問題を抱えています。日本を代表する清流である宮川を守るためにも、一人でも多くの方に宮川の自然について関心を持っていただければ幸いです。

裏表紙：ネコギギ

環境読本「宮川 水と水辺の生き物 - 脊椎動物編 -」第二版

写真・文・デザイン
鹿野雄一（学術博士）http://bio-image.net

企画・製作
大杉谷自然学校　三重県多気郡大台町久豆199番地
http://www.ma.mctv.ne.jp/~osn

発行者
大台町教育委員会

協力
佐藤拓哉（学術博士）

※印は大台/中勢/南勢地域以外で撮影したものです。